第4章　授業外活動

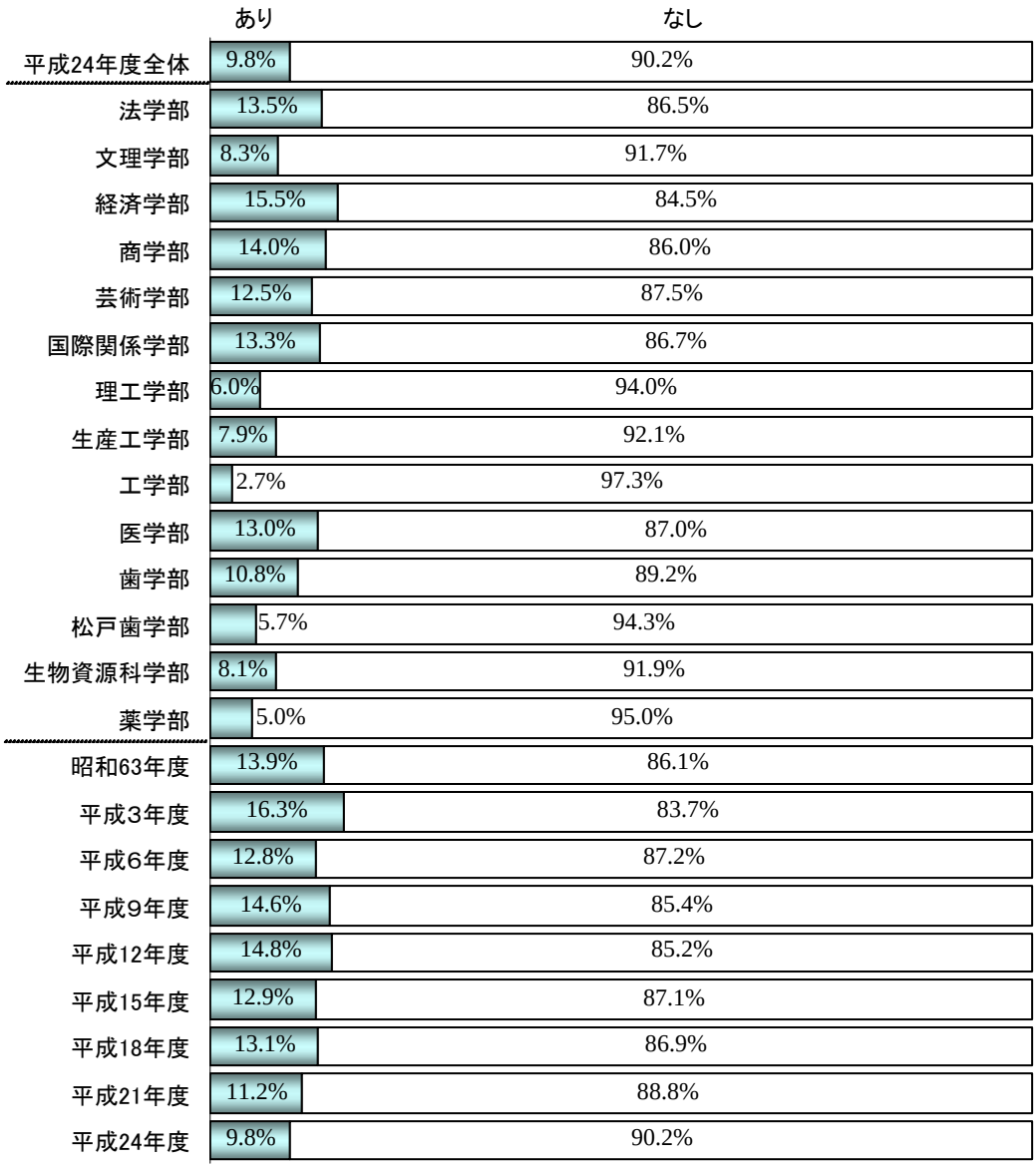
1.学外の勉学経験の有無

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校に通った経験がある学生は9.8%。
経済学部の学生が15.5%で最も高く，商学部・法学部が続く。
経年変化を見ると，平成3年度をピークに，６年前より減少傾向。

本学入学以来，知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験がある学生は全体の9.8%となっています。

学部別に見ると，経済学部で15.5%と最も高く，商学部（14.0%）・法学部（13.5%）の順で高くなっています。一方，工学部では2.7%と低くなっています。

経年変化を見ると，平成３年度が16.3%とピークになっており，平成18年度まで約13～14%台で推移していましたが，平成21年度から減少傾向が見られ直近の６年間で3.3ﾎﾟｲﾝﾄ減少しました。



2.学外の勉学経験の有無－学部別経年変化

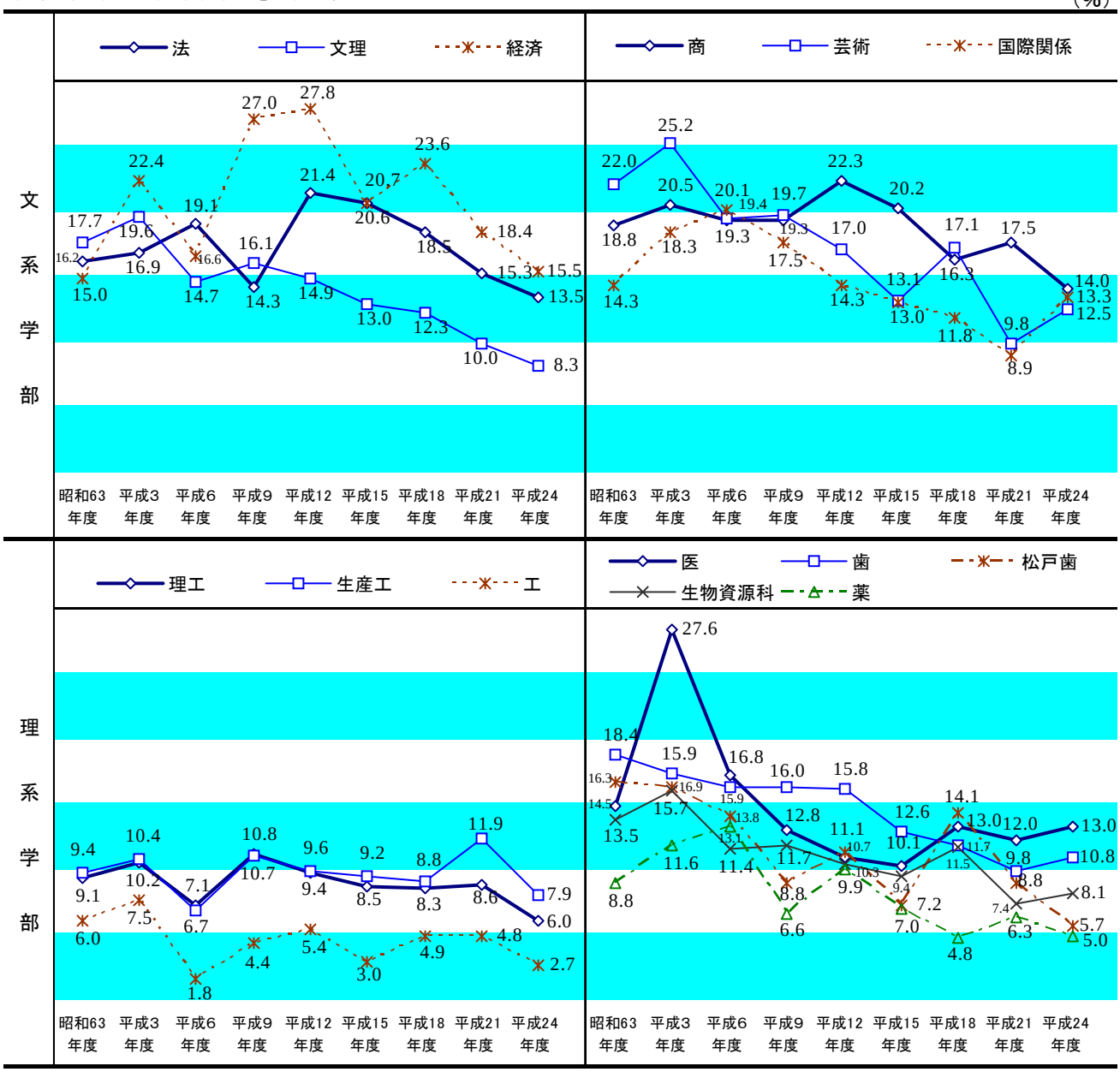
知識・技術や資格取得のための学外での勉学経験率は，減少傾向にある学部が多い。
就職を目標としたカリキュラムの改訂に加え，長期不況による学生の経済事情も影響か。

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験がある比率の学部別経年変化を見たものが下図です。

平成24年度に最も高かった経済学部を見ると，平成12年度のピーク時(27.8%）に比べ12.3ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています。法学部と商学部も平成12年度から減少傾向を示しています。医学部は平成３年度には27.6%と突出して高く，平成15年度まで減少傾向にありましたが，その後漸増に転じています。全般的に見ると，学外での勉学率は減少傾向にある学部が多く，直近の３年間で減少した学部は９学部となっています。

学部別,「学外の勉学経験率」の経年変化

（%）

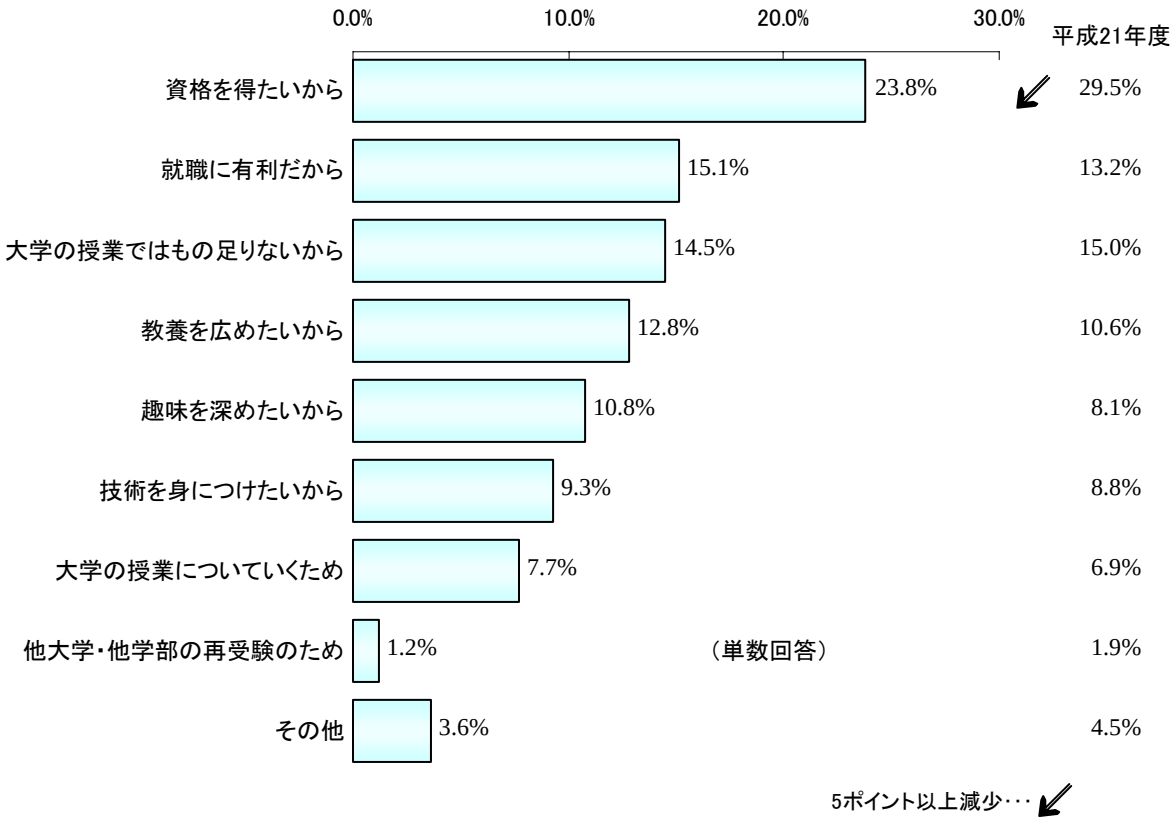


3.学外での勉学をする気になった理由（経験のある学生）

学外で勉学をする理由は，「資格を得たいから」が減少，「就職に有利」が増加。
学外で勉学する学生の焦点が『就職』に向かう傾向。

学外での勉学経験がある学生の勉学理由を見ると，「資格を得たいから」が23.8％で最も高くなっています。２番目に「就職に有利だから」（15.1％）が続いています。

３年前と比較すると，前者は5.7ﾎﾟｲﾝﾄ減少しているのに対し，後者は1.9ﾎﾟｲﾝﾄ増加しており，学外で勉学をする学生の意識が，就職に直結する勉学に向かう傾向が見られます。また，「大学の授業ではもの足りないから」（14.5％）はほぼ横這い，「教養を深めたいから」（12.8％）が2.2ﾎﾟｲﾝﾄ増と勉学志向の高まりも反映されているようです。

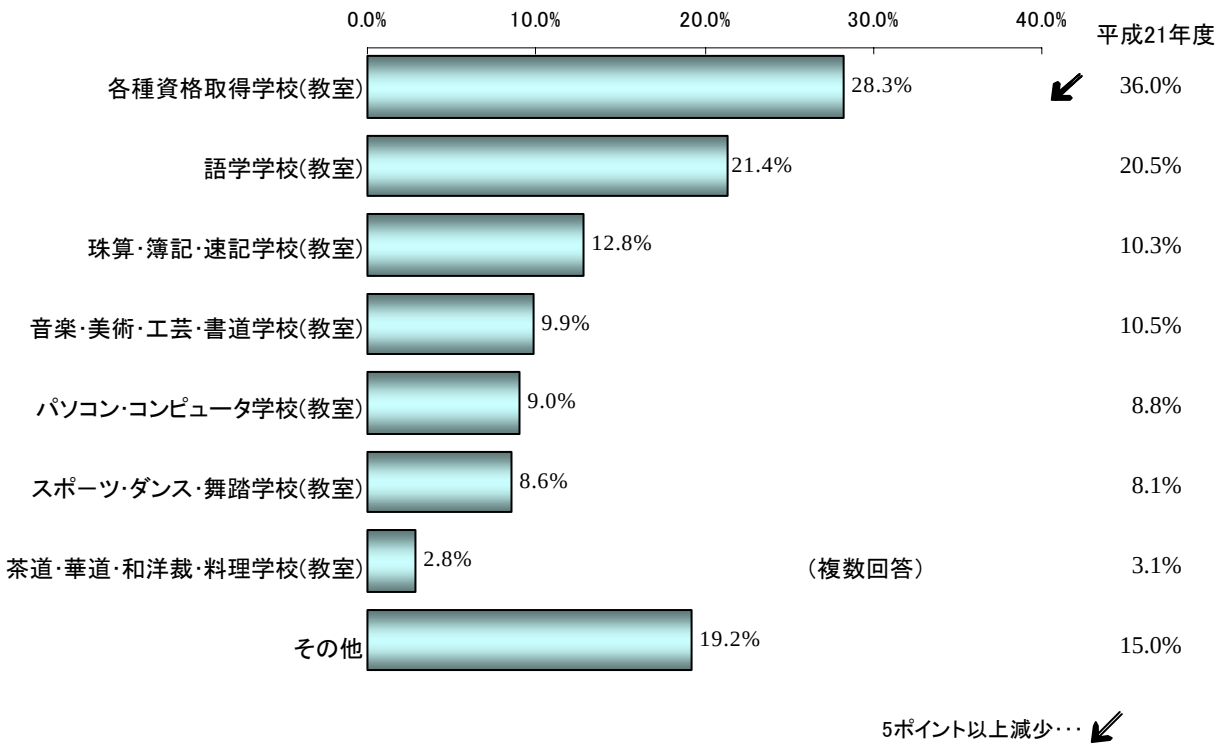


4.学外で通った各種学校の種類（経験のある学生）

学外での勉学経験がある学生が通う学校は「各種資格取得学校（教室）」が28.3%でトップ、「語学学校（教室）」が続く。カリキュラム改訂などの影響により増減か。

学外での勉学の経験がある学生が通う学校について見ると，「各種資格取得学校（教室）」が28.3％で最も高く，「語学学校（教室）」が21.4％，「珠算･簿記･速記学校（教室）」が12.8％で続いています。

３年前と比較すると，「各種資格取得学校（教室）」 が7.7ﾎﾟｲﾝﾄ減少している点が目立ちます。前ページでも考察したように,就職を目標としたカリキュラムの改訂や学生指導の充実が背景にあると考えられます。「語学学校（教室）」は0.9ﾎﾟｲﾝﾄとわずかに増加しています。



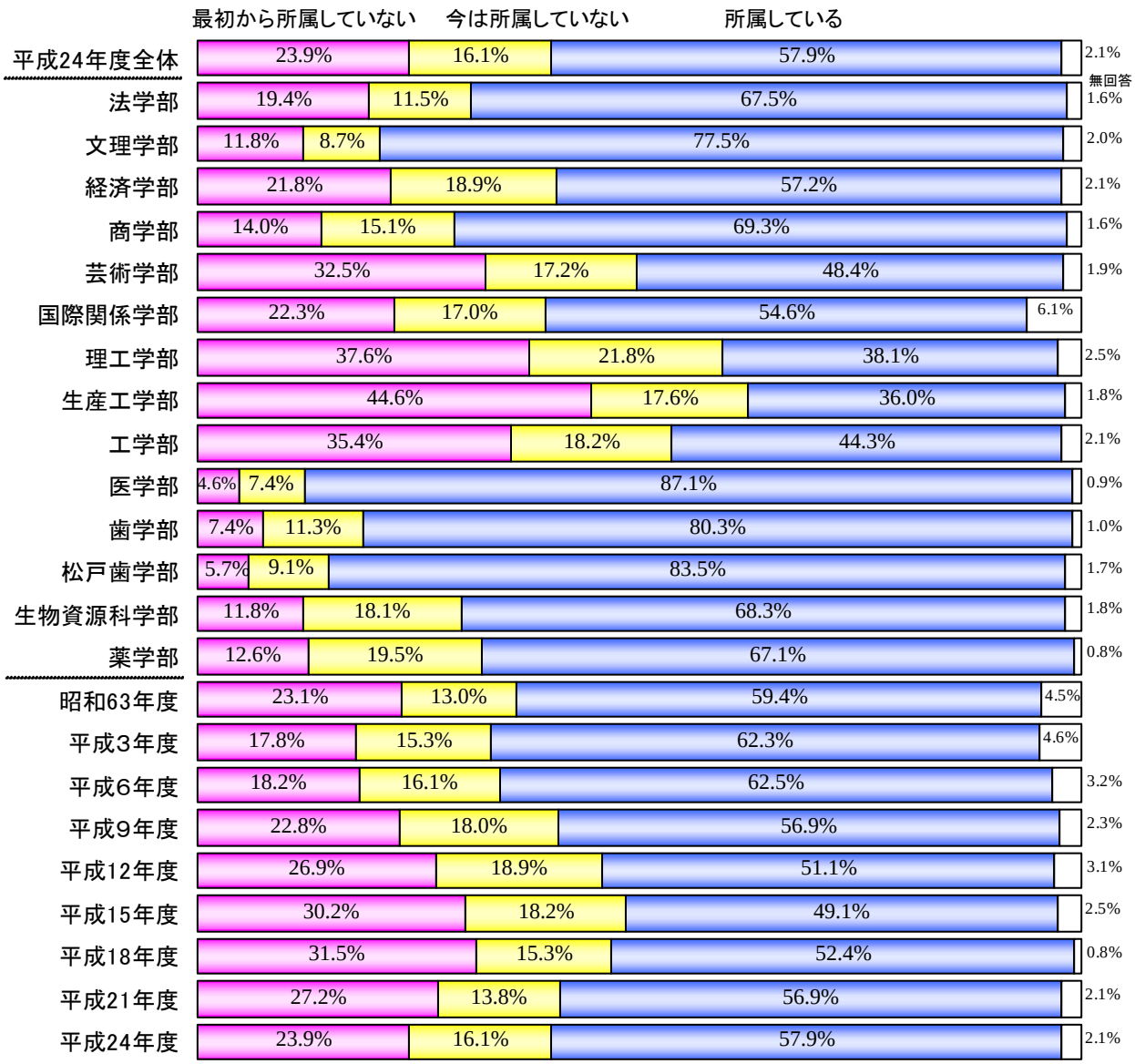
5.クラブ・サークルへの参加の有無

クラブ・サークルの所属率は57.9%。医・歯学部系で高い傾向に変化なし。
経年変化を見ると，クラブ・サークル活動は近年再び活発化の方向に。

学生全体で見ると，調査時点(平成24年６月)でのクラブ・サークル所属率は57.9%，「今は所属してない」が16.1%，「最初から所属していない」が23.9%となっています。

学部別に所属率を見ると，医学部の87.1%を最高に，医・歯学部系の学生は80%台と高くなっていますが，生産工学部・理工学部では40%弱となっており，学部により大差が見られます。

経年変化を見ると，所属率は平成６年度の62.5%をピークに漸減し，平成15年度には半数を割るまで低下しましたが，平成18年度から増加に転じ，平成15年度からの９年間で8.8ﾎﾟｲﾝﾄ上昇しています。一方，「最初から所属しない」学生は平成６年度から増加傾向にありましたが．平成18年度の31.5%をピークに平成21年度から減少に転じ，直近の６年間で7.6ﾎﾟｲﾝﾄ減少しています。参加を積極的に促している学部もあることから，クラブ・サークル活動の参加状況は近年活発化してきています。

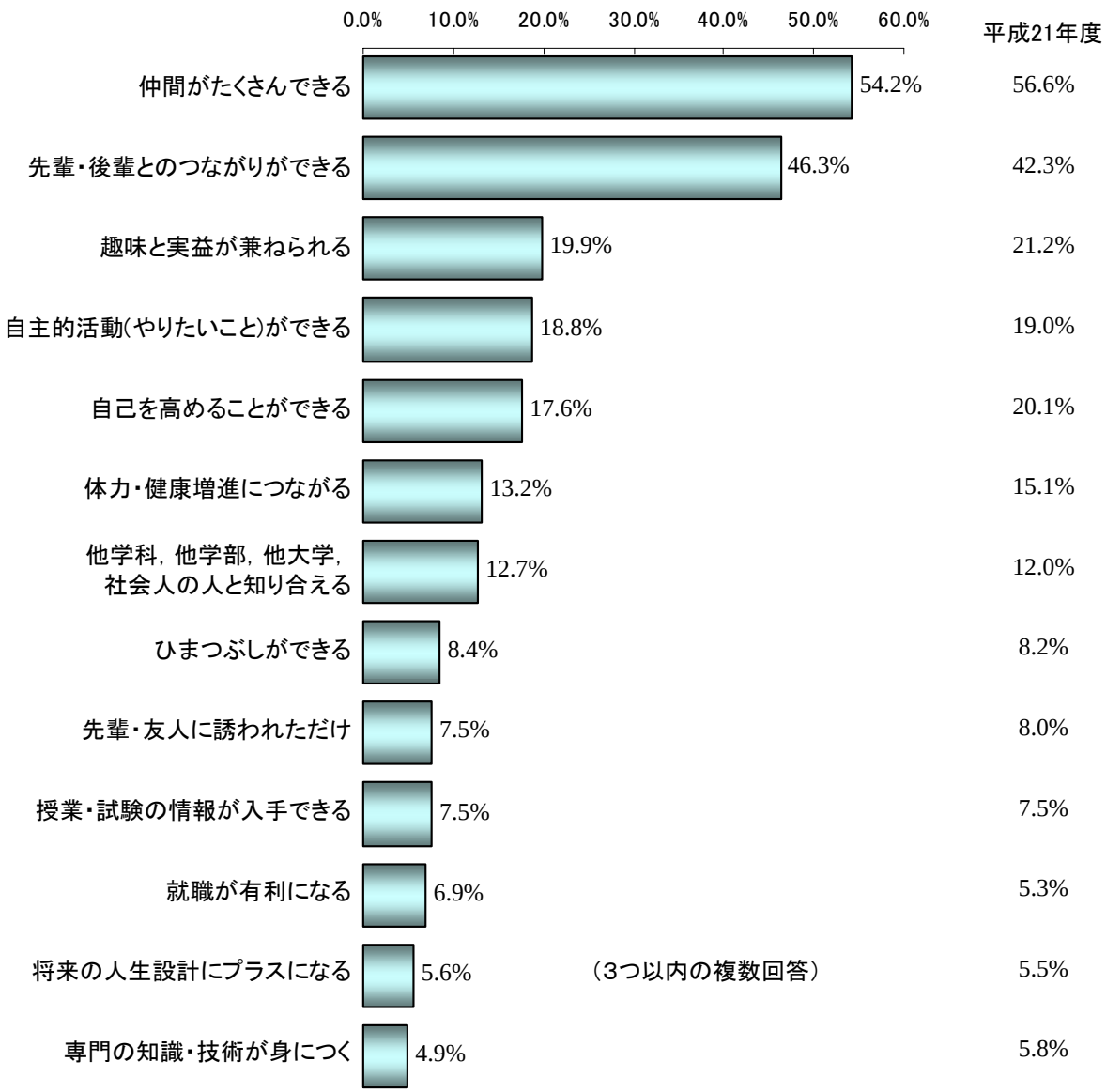


6.クラブ・サークルに参加する理由（現在「参加している」学生）

クラブ・サークルへの参加は，人間関係の構築が主要な目的，次いで自己実現欲求。
医・歯学部系と薬学部の学生は，将来に備えて縦関係のコミュニケーション重視傾向。

クラブ・サークルに参加する理由を見ると「仲間がたくさんできる」が54.2％で最も高く，「先輩・後輩とのつながりができる」が46.3％で２番目となっており，人間関係の構築が主要な目的となっていることがわかります。「趣味と実益が兼ねられる」「自主的活動（やりたいこと）ができる」「自己を高めることができる」「体力・健康増進になる」という回答はそれぞれ20％弱となっており，自己実現欲求が二次的な目的と見られます。３年前と比較しても，大きな変化は見られませんでした。

医・歯学部系と薬学部では，「先輩・後輩とのつながりができる」が約60％以上で参加理由のトップとなっています。クラブ・サークルへの参加率も高いことから，同学部の学生は，在学中から縦関係のコミュニケーションを重視していることがうかがえます。医・歯学部系では，調査開始年から24年間この傾向が継続しています。また，平成18年から６年制を設置した薬学部では直近の３年間で「先輩・後輩とのつながり」が12.5ﾎﾟｲﾝﾄ増と目立っています。

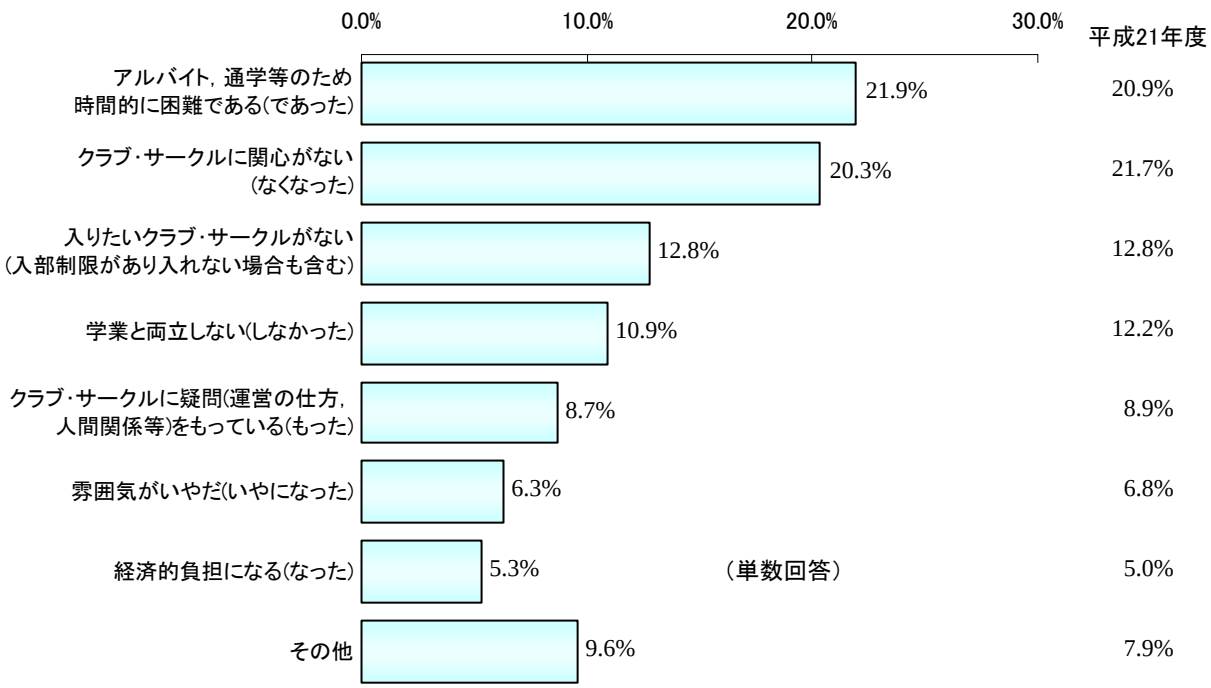


7. クラブ・サークルに参加しない理由（現在「参加していない」学生）

クラブ・サークルに参加しない理由のトップに「アルバイト，通学等のため時間的に困難」，次いで 「関心がない（なくなった）」。３年前と逆転。

クラブ・サークルに参加しない学生に参加しない理由を見ると，「アルバイト，通学等のため時間的に困難」が21.9％でトップ，「クラブ・サークルに関心がない（なくなった）」が20.3％で続いています。３年前と比較して両者の順位が入れ替わっており，忙しい学生が増えているのかもしれません。「入りたいクラブ・サークルがない」（12.8％），「学業と両立しない(しなかった)」(10.9％)が10％台で挙がっています。

経年変化を見ると，「アルバイト，通学等のため時間的に困難」は平成３年度の14.8％から漸増傾向にあり平成18年度には22.8％でしたが，平成21年度に1.9ﾎﾟｲﾝﾄ減少，平成24年度は1.0ﾎﾟｲﾝﾄ増加とわずかに変動しています。「関心がない（なくなった）」は、平成６年度の14.7％から平成21年度まで漸増傾向が続いていましたが，平成24年度は1.4ﾎﾟｲﾝﾄ減に転じています。「学業と両立しない（しなかった）」も平成９年度の5.7％から漸増傾向が続いていましたが，平成24年度は若干減少に転じています。総合的に見ると，アルバイト等で時間に追われたり，学業などに重点を置いているためにクラブ・サークルに関心がない（なくなった）学生が増加してきたと考えられますが，増減幅が小さいため，その傾向は継続していると言えるでしょう。



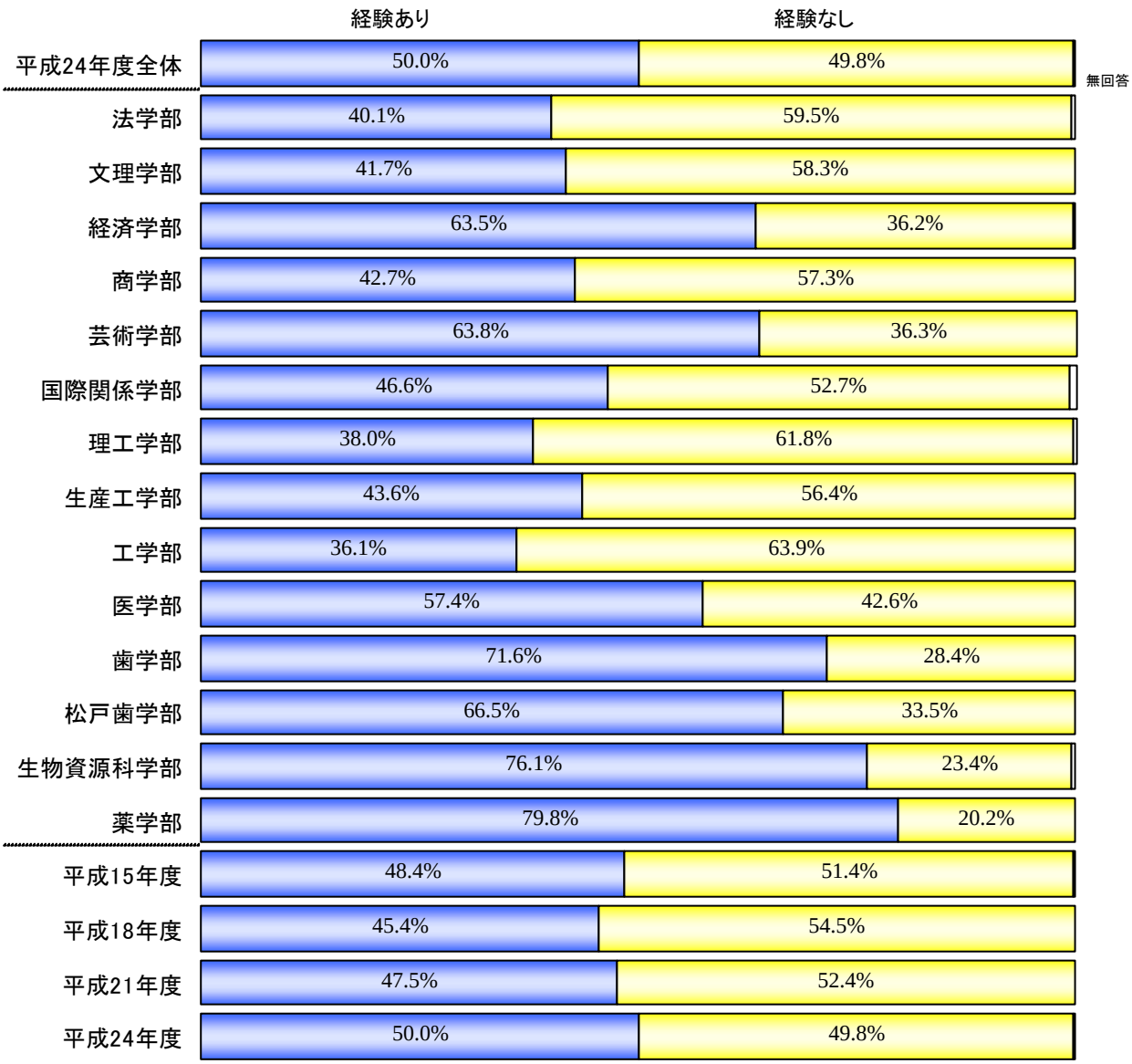
8. 学生主体行事への参加率

学生主体行事に参加経験のある本学学生は50.0%。
学部間に温度差。６年前から参加率は増加傾向。

ＮＵ祭・学部祭・体育大会など学生主体行事への参加について本学学生全体で見ると，「経験あり」が50.0%とちょうど半数を占めています。

学部別に参加率を見ると，薬学部で79.8%と最も高く，生物資源科学部と歯学部で70%台，松戸歯学部・芸術学部・経済学部で60%台と高くなっています。一方，工学部では36.1%で最も低く，理工学部でも38.0%と，学部による温度差が顕著に表れています。

参加経験がある学生の比率の経年変化を見ると，平成18年度の45.4%から漸増傾向にあり，直近の６年間で4.6ﾎﾟｲﾝﾄの増加が見られます。



9. 参加経験のある行事と参加したことがない理由

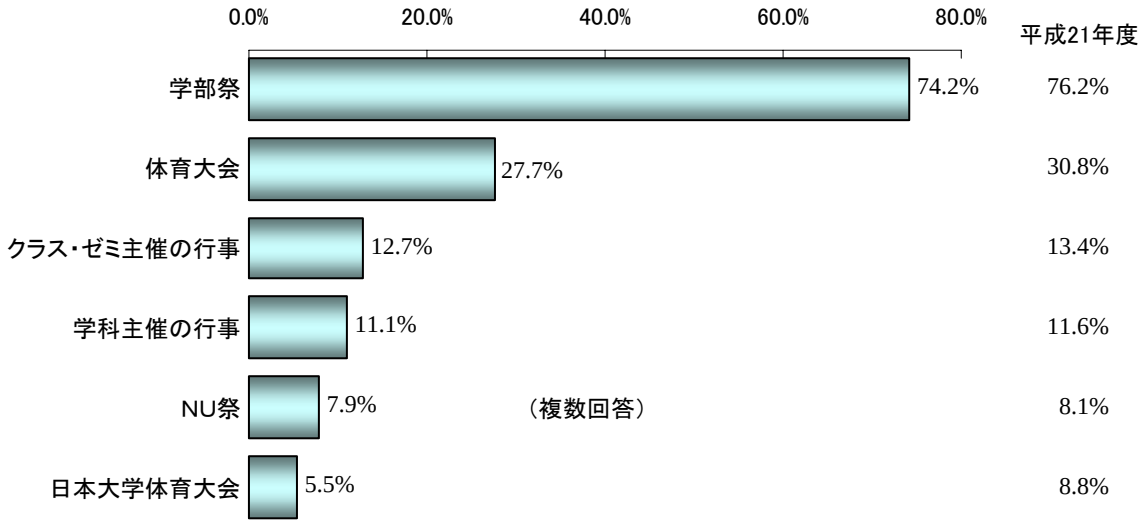
参加経験はキャンパスごとの「学部祭」が主。「体育大会」が続く。
「ＮＵ祭」の参加は減少傾向。情報伝達活動の継続が必要？

過去に参加経験がある学生主体行事は，「学部祭」が74.2％で断トツであり，学部の「体育大会」が27.7％で続いています。学部ごとにキャンパスが分かれているため学部行事への参加が中心になっており，「ＮＵ祭」や「日本大学体育大会」といった本学全体の行事は10％未満にとどまっています。

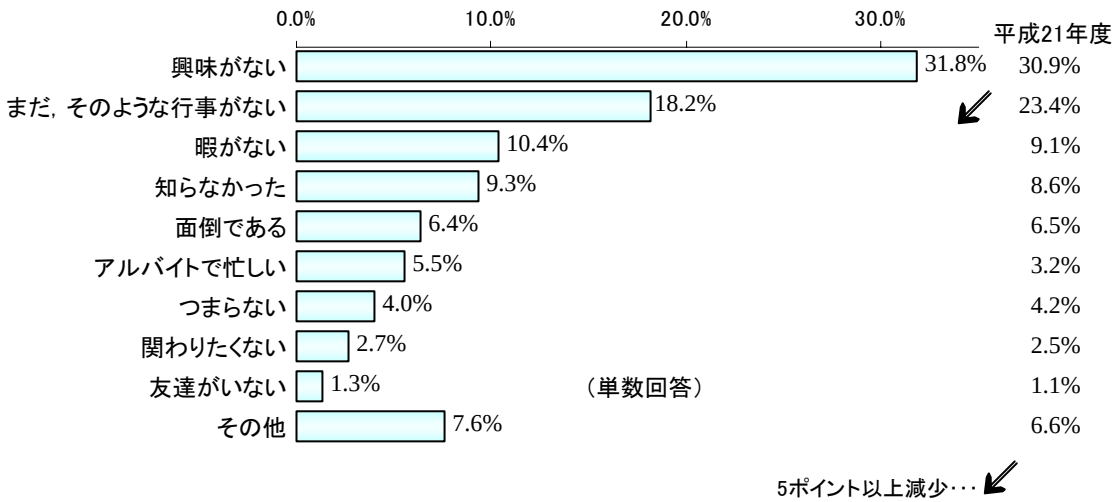
経年変化を見ると，「ＮＵ祭」は平成15年度の18.9％から減少傾向が続いています。

参加したことのない理由としては，「興味がない」が３年前（30.9％）同様31.8％で最も高くなっています。「知らなかった」は平成18年度の14.3％から平成21年度には8.6％と行事に関する情報伝達に改善傾向が見られていましたが，平成24年度は9.3％とわずかに増加しており，情報伝達活動の継続が必要なことがうかがえます。

参加経験のある行事（参加経験者）

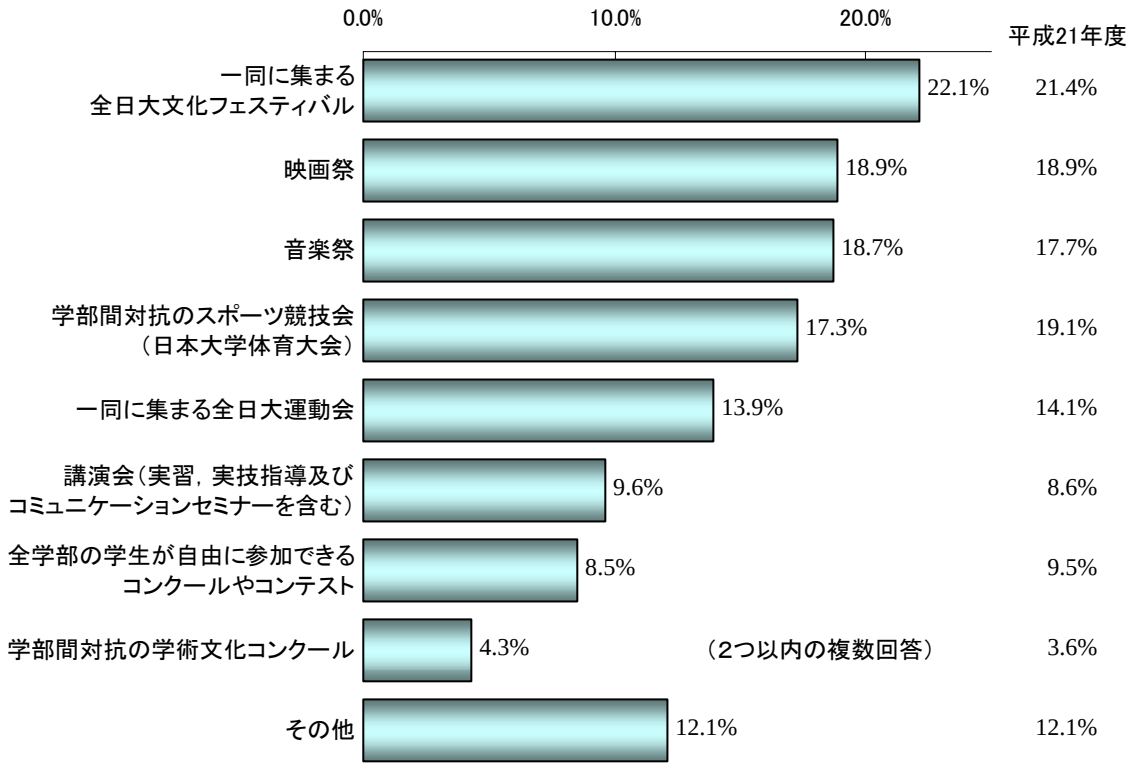


参加したことがない理由（参加未経験者）



10.学部間交流行事として参加したい行事

学部間交流行事は，「一同に集まる全日大文化フェスティバル」が３年前からトップ。
硬派よりアミューズメント系の行事を嗜好する傾向。

本学学生全体で見ると，学部間の交流行事として参加したい行事は「一同に集まる全日大文化フェスティバル」が22.1％でトップ。「映画祭」と「音楽祭」が約19％，「学部間対抗のスポーツ競技会」が17.3％で続いています。「講演会」は9.6％，「学部間対抗の学術文化コンクール」は4.3％にとどまっており，学術的で硬派な行事よりアミューズメント系の体育・文化行事を通して学部間の交流を深めたいという学生が多いことがうかがえます。「一同に集まる全日大文化フェスティバル」は10学部で20％以上の学生が支持しています（右記の学部以外。すなわち芸術学部・生産工学部・歯学部・生物資源科学部）。

６年前は「学部間対抗のスポーツ競技会」と「映画祭」がベスト２でしたが，平成21年度から「全日大文化フェスティバル」がトップになっています。